遠州産地

ENSHU SANCHI

布の教科書

もくじ

01 遠州織物ってなあに?

02 身近にある布をさがそう!

03 布の種類

04 遠州織物の布ができるまで

06 布のはばによる名前のちがい

07 布をそめる

08 そめのきほん

09 浜松注染そめってなんだろう?

10 産地の仕事

13 コラム





わたしたちが住む遠州地方(静岡県西部)は、日本有数の織物の産地です。糸を使って織られる布にはさまざまな種類があり、いろいろな場所で使われています。この本を通じて、遠州織物の特色について学んでみましょう。



遠州織物ってなあに？

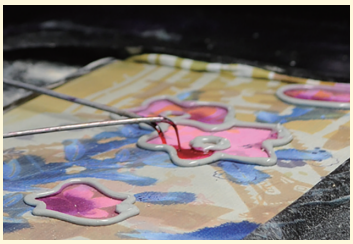


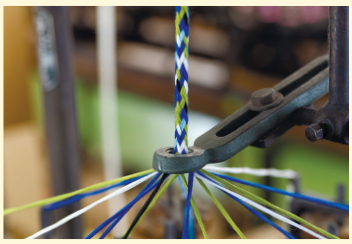
遠州織物
ENSHU ORIMONO ®

2017（平成29）年4月、
地域団体商標を取得。









綿や麻といった天然せんいを主に使い、遠州地方で織られた織物のことを「遠州織物」と言います。昔ながらのシャトル織機を使う工場も多く、はだざわりのよい織物は日本だけでなく、世界からも注目を集めています。

遠州地方は、泉州（大阪府）、三河（愛知県）とならぶ、日本三大綿織物産地に数えられています。日照時間が長く、冬でもあたたかな気候と天竜川のゆたかな水のおかげで、古くから綿花を育ててきました。江戸時代には、農家の副業として綿織物が織られていました。

明治時代になると、湖西市に生まれた豊田佐吉が日本で初めて自動織機を発明し、手で織るよりも、たくさんの布を織れるようになりました。さらに、浜松にある日本形染という会社が、手作業でしていた布や糸をそめる作業の機械化に成功。これらの発明が遠州地方を綿織物の産地に変えました。

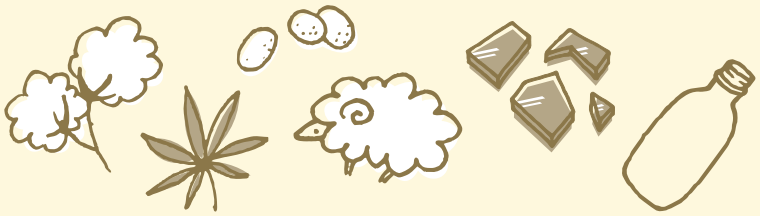
布を織ったり、そめたりするだけでなく、糸作りから、仕上げや加工、服などの製品作りまで、ほぼすべてを遠州地方で行えることは、他の産地とはちがう大きな特色です。また、職人さんのこだわりが光る小さな機屋が数多くあることも、多種多様な遠州織物を形作っています。

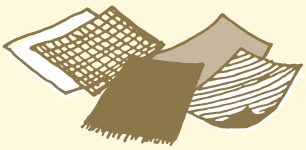
わたしたちの身近にある布をさがそう!



布って、何からできているの?

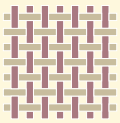
服やかばん、シートベルトなど、その多くが糸からできています。布のほつれたところを見ると、糸が集まっていることが分かります。この糸は、綿や麻などの植物から取ったり、羊の毛や蚕などの動物から取ったりします。糸の材料となる細い毛をせんいと言います。他にも、石油やガラス、リサイクルしたペットボトルからも糸を作ることができます。糸を作るにはいろいろな方法がありますが、例えば綿なら、細く引きのばした後、ねじってからませる(よりをかける)ことで強度を出し、糸が完成。この作業をつむぐと言います。こうしてできた糸を使い、布が作られています。





布の種類

たて糸とよこ糸を交差させることで布になります。作り方のちがいで主に4種類に分かれます。

織物（織るもの）		たて糸とよこ糸を直角に交差させたもの。多くの布製品は織物で織られている。	服、手ぬぐい、カーテン、リボン、テープ（帯状の布）など
編物（編むもの）		1本の長い糸で輪を連続して作り、たて方向、横方向にひっかけて布にする。	ニット（セーター）、フリンジ、かばんなどのかざり用テープなど
組物（組むもの）		いくつもの糸をならべ、それぞれをななめに交差させたもの。	丸ひも、平ひも、レースなど

不織布	せんいを糸にせず、そのまま水や熱などで強くおしつけて布状にしたもの。「織らない布」とも言われ、マスクなどの医療品をはじめ、農業や土木、自動車関係など、はば広く使われている。

遠州で織られる布の一例





やわらかく、光沢感がある布。遠州産地は、細い糸で高密度に織った高級シャツ地が得意。



日本一の生産量と言われる遠州産地。麻を織るのはむずかしく、機屋の高い技術力が分かる。



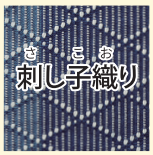
魚の網がルーツ。通気性にすぐれ、はださわりがよい。海や湖が近い遠州ならではの技。



パイル織物のひとつ。磐田市福田を中心に、全国の9割以上を生産する一大産地。



ジャカード織機を使い、たて糸を1本ずつあやつることで細かな図がらを織ることができる。



布に線や図形をししゅうすることを刺し子といい、織機を使い刺し子柄を織り込んだもの。

MADE IN ENSHU

遠州織物の布ができるまで

紡績

綿のかたまりをほぐし、引きのばして細くします。

1



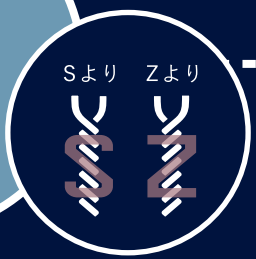
綿の原産国によって風合いがちがうよ!

撚糸

糸をねじって、からませる(よりをかける)ことで強くします。

2

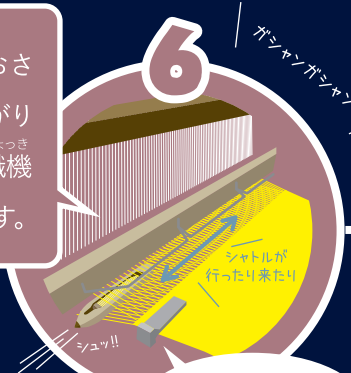




織布(機屋)

上下に分けて広げたたて糸の間によこ糸を通し、おさという道具を使い打ちこむことで、すき間なく織りあがります。よこ糸を入れるシャトル(杼)があるものと、ない織機があり、遠州織物はゆっくり織るシャトル織機が多いです。

6

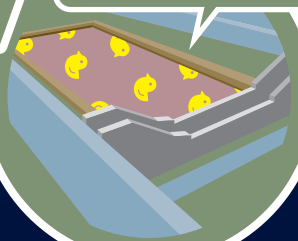


スペースシャトルと同じ動きだよ

そめ

顔料や染料を使い、生地に色や図がらをそめます。

7



8



整理加工

糸ののりを落としたり、生地に風合いを出したり、機能性をあたえたりするため、さまざまな加工をします。

布ができるまでにはさまざまな工程があります。どの工程にも高い技術力を持つ職人が活躍し、すぐれた遠州織物をささえています。ここでは、糸をそめてから織る方法の一例を見てみましょう。

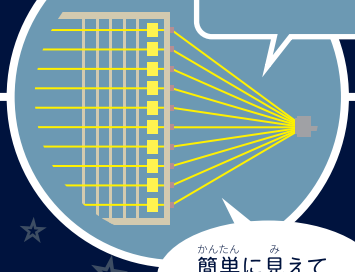
糸ぞめ

糸のままそめることで、布を織る前にそめる「先ぞめ」、織ってからそめる「後ぞめ」があります。また、シャツなどの製品にしてからそめる「製品ぞめ」もあります。

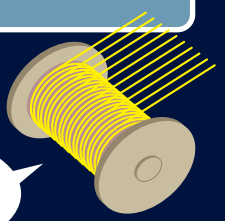
織りやすさはココで決まる！

3 整経

布の仕上がりにあわせ、たて糸の長さと本数をそろえてビーム（大きなボビン）に巻き取ります。



簡単に見えて…簡単じゃない!!



ただ巻いてるだけじゃない!

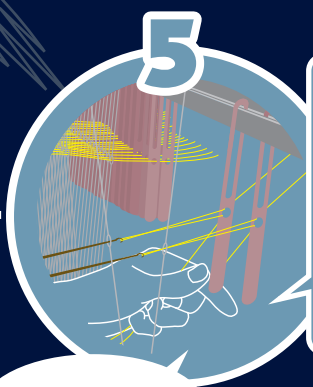
4 のりづけ

糸のけば立ちや、織るときのまさつによって糸が切れないよう、たて糸にのりをつけます。



5 へ通し

布の仕上がりにあわせ、たて糸を1本ずつ手作業で織機の部品に通します。

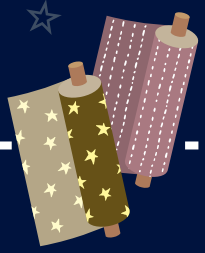


気が遠くなる本数…

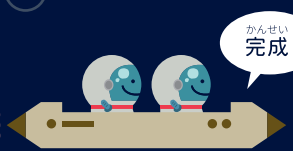
黒糸は見にくくてムズカしい！

6 ほうせい

服や製品の形にするために、布を切り、ぬい合わせます。







完成！



布のはばによる名前のちがい

着物や浴衣といった和装に使うはばのせまい布を「小はば」と言い、洋服などに使われるはばの広い布を「広はば」と言います。また、物をしばるひもやシートベルトなどは「細はば」とよばれます。遠州地方では、「細はば」「小はば」「広はば」の全てが織られています。



細はば

織はば：～13cm

テープやひも、シートベルトなどの産業資材。ファッション小物の材料など。







小はば

織はば：～51cm

浴衣や着物、手ぬぐいなどの和装用。







広はば

織はば：51cm～（110～145cmが中心）

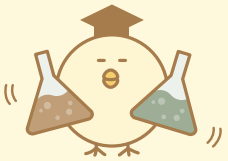
洋服地やインテリア材、文房具、かばん、タオル、食品用ろ布など。







布をそめる



布をそめることで、さまざまな色やもようの布を作ることができます。また、そめることで布がじょうぶになるといった効果もあります。天竜川などが流れる遠州地方は地下水がゆたかで、一年を通じて晴れの日が多く、冬には遠州のからっ風とよばれる強い季節風がふく場所です。染料などを落とす大量の水と、布をかわかす日ざしや風を必要とするそめにとってめぐまれた場所だったことも、遠州織物がさかんになった理由と言えます。







そめの流れ

※織った後にそめる「後ぞめ」の一例



前しょ理 → そめ → 整理 仕上げ加工

前しょ理のきほん

せんい（布）にふくまれる不純物などを取りのぞき、そめやすくします。

- **毛焼き** ····· 表面のけば立ちを火で焼いて取りのぞく。
- **のりぬき** ····· たて糸についたのりを薬品などで落とす。
- **せいれん** ····· せんいにふくまれる不純物を熱などで取りのぞく。
- **ひょう白** ····· 色のついた不純物を分解し、布を白くする。
- **シルケット** ···· 表面をなめらかにし、光沢を出す。布がちぢみにくく、そめやすくなる。

そめのきほん

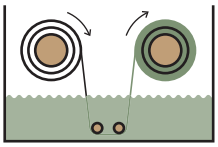
白く織りあがった布を染料につけたり、型などを使ったりしてそめます。布の中までしっかりそめる「浸染」と、表面だけをそめる「捺染」の2つのそめ方があります。

浸染

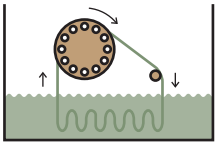
染料をとかしたえきに布をひたして、まんべんなくそめる方法。布の中までしっかりとそまるのが特ちょう。無地ぞめがきほんですが、そめない部分を糸でしぼったり、のりでおおったりして、もようをつけることもできます。

染色機の一例

＜ ジッガー染色機 ＞



＜ ウインス染色機 ＞

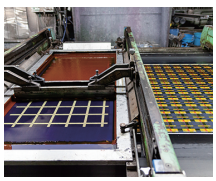


捺染

印刷（プリント）のことで、布の表面だけがそまります。多色でのそめ分けや、表とうらでちがうもようにすることもできます。型の有無や形など、さまざまな種類があります。

捺染型の一例

＜ フラットスクリーン ＞



＜ ロータリースクリーン ＞



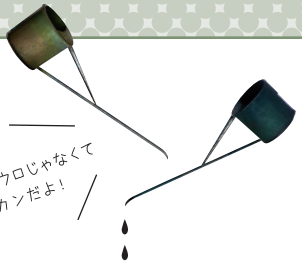
整理・仕上げ加工のきほん

そめられた布の両はしをひっぱり指定のはばにする他、色落ちをふせぎ、やわらかく仕上げます。また、熱や薬品などを使い、見た目を変えたり、機能を加えたりすることもできます。

■仕上げ（後）加工の一例

商品名	特ちょう
カサール	カやブヨといった血をすう虫をよせつけない。
ベビールース	しっとり感とふくらみ感は、まるで赤ちゃんのほっぺたのよう。
絶対零度	キシリトールが持つ水や熱をすいとる特ちょうを利用し、すずしさが続く。

浜松注染そめってなんだろう？



型ぞめの一つで、明治時代に始まった日本独自の染色方法です。長い布を折り重ね、型紙を使い特別なのりをつけてそめます。やかんとよばれるジョウロのような道具を使い、染料を注いでそめることから「注染」という名前が付きました。表うらがなく、たくさんの色を使え、美しいぼかしが特ちょうです。浜松では明治20年代から手ぬぐいをそめる方法として使われ、大正時代になると浴衣もそめられるようになりました。浜松は、東京や大阪とならび、注染浴衣の産地として知られています。

浜松注染そめの流れ

❶ 型作り



❷ さらし、地まき



❸ のり置き（板場）



❹ 土手作り



❺ 注染（紺屋）



❻ 水洗い（水元）



❼ 高ぼし



❽ 仕上げ



体験もできるよ！



産地の仕事

布のデザイナー

浜田美希さん ｜ 古橋織布有限会社【浜松市西区】

100年近く続く機屋で営業や布のデザイン、検査をしています。小学6年生のとき、自分たちで藍を育て、糸をそめ、手織りして布を作ったことがあり、小さなころから布が大好きでした。高校卒業後は、東京にある服の専門学校で布の勉強をし、綿が好きだったこともあり、綿織物で世界的に知られる今の会社に入社しました。自分がデザインした布を使った服を街中で見かけたときは、とてもうれしいですし、やりがいを感じます。遠州地方では50～60年前の古い織機が今も動いています。ものづくりに興味があり、伝統産業に関わりたい人は、この仕事に向いていると思います。



布のデザイナー

古山栄吾さん ｜ 古山株式会社【浜松市中区】

布のデザインや生産管理、販売をしています。生産管理とは、布作りに協力してくれる工場と話し合い、スケジュールや品質（色や手ざわり）を一定にたもつことです。この仕事のむずかしさは、お客さまの頭の中にあるイメージを具体的にすること。赤色と言っても、色のこさ、明暗は人それぞれ。布をどんな赤色にそめたらいいか、お客さまとしっかり話をして、希望をきちんと理解する必要があります。工場と協力し、デザイナーさんによろこんでもらえる布を作ることにやりがいを感じますし、自分が関わった布の服がお店にならんでいると、とてもうれしく思います。



テキスタイルデザイナー（布製品のデザイナー）

小畑瑠花さん

榎本株式会社【浜松市中区】

カーテンやソファなどに使うインテリアファブリック、ファッション雑貨、手ぬぐいの計画やデザインの仕事をしています。自分で考えた商品が店頭やネットショップにならび、お客さまが買ってくれたり、いいよねって共感してくれたりするのがうれしいですね。新しいことをいつも考え、商品として出し続けるのはむずかしいですが、毎日の生活の中にヒントがあったり、ふとしたときにアイデアに気づいたりします。デザインは自己表現ではなく、人があって成立するものです。人の意見に耳をかたむけ、人によりそい、なっとくがいくものをこれからも作っていきたいです。



注染の手ぬぐいや浴衣をつくる仕事

和田光世さん

和田染工有限会社【浜松市東区】

浜松注染という染色技法で、熟練の職人さんと手ぬぐいや浴衣を作っています。浜松注染でそめた手ぬぐいや浴衣は、色合いが美しいだけでなく、肌触りがよく、水をすいやすい、かわきやすいといった特長があります。手仕事が多く、絵がらや染料、布、気候にあわせて調整するのは大変ですが、カラフルでぼかしのきれいな布ができたり、お客さまによろこんでもらえたりするとうれしいですね。ただ、昔はたくさんあった浜松注染の工場も、今は数社ほどが残るだけ。長い歴史を持ち、日本の生活に根付く浜松注染の伝統を、次の世代につないでいきたいと思います。



2023.3.1現在

プリント職人

末廣拓さん

日本形染株式会社【浜松市中区】

デジタル捺染機（インクジェットプリンタ）の運転手として、のりの作製、機械の操作やトラブル対応、各工程への作業依頼をはじめ、プリントデータの画像編集、ホームページやネットショップにのせる商品写真の調整など、仕事はさまざま。データの色や線をきれいに調整できたとき、ネットショップでお客さまから感謝のコメントをいただいたときなどに、やりがいを感じます。一方で、ホコリや染料でよごれてしまうのは大変ですね。どうしたらこうりつよく仕事ができるか、想像力を働かせながら仕事に取り組むのも、この仕事の面白い所です。



洋服のデザイナー

松下昌樹さん

株式会社HUIS【浜松市西区】

遠州織物を使った洋服のブランド「HUIS」で、布や洋服をデザインしたり、作った洋服を売ったりしています。この仕事を始めたのは、昔から洋服が好きだったこと、浜松が世界的に有名な「遠州織物」を作っている街だと知り、やわらかくて軽く、着心地がとてもいい遠州の布で服を作りたいと思ったから。お客さまにHUISの洋服を着てもらうと、「こんなにも気持ちのいい布なんだ」とおどろかれます。そんな服を作れることが楽しく、やりがいがあります。遠州織物で作られた洋服は本当に気持ちがいいです。だから、洋服や布が好きな人にとって、浜松は宝の山だと思います。



コラム

COLUMN 01

写真提供：豊田自動織機



モノづくりのまちのルーツは遠州織物

世界を代表する自動車メーカー「トヨタ」と「スズキ」。トヨタグループの創業者である豊田佐吉は、1896年に日本で初めて動力織機を開発した人です。また、スズキの創業者である鈴木道雄もさまざまな織機を開発。1929年には格子がらを自由に織れる織機を開発し、海外に輸出されるほど話題に。2人の発明家による織機開発の技術や、モノづくりへのチャレンジは、楽器やオートバイ、自動車といった遠州の産業に受けつがれています。

COLUMN 02

世界がみとめる遠州織物の技術力



遠州地方では、古くからシャトル織機が使われてきました。その保有数は、日本最大級をほこります。最新の機械と比べると速く織ることはできませんが、糸に無理をさせず、ゆっくり織ることで、糸がぎっしりつまっていても軽く、ふっくらとした風合いのある布を織ることができます。高い技術力、職人さんのこだわり、布が好きという思いで織られた布は、ヨーロッパをはじめとした海外の高級ブランドから高い評価を受け、有名なファッションコレクションにも選ばれています。



＜発行＞

遠州産地振興協議会
（事務局：浜松市産業部産業振興課）

『遠州さんち ー布の教科書ー』は、すでに発行されている『遠州さんち ー広幅機屋のこと ー』『遠州さんち ー染織整理加工のこと ー』『遠州さんち ー細幅のこと ー』を教育補助本用として再編集したものです。

STAFF

“産業の伝承と発展の一助になれるとうれしい”
クリエイティブディレクション
三井いくみ（株式会社 mocha-chai）

“光栄で誇らしいモノづくりのまち、故郷”
デザイン・イラスト
塚本千栄（千輪デザイン）

“本を読み終えたら、次は本物に触れてみて”
取材・編集・文章
大杉晃弘（写真と、企み）

“私にとって、遠州織物は遊園地”
コンシェルジュ
浜田美希（ひよこのかい）

＜印刷・製本＞

東海電子印刷株式会社

遠州さんち ー布の教科書ー
2023 年 3 月発行

本誌に掲載されている記事、図版、写真等の無断掲載、複製、転載を禁じます。

遠州さんちマップ

写真提供：トヨタ産業技術記念館

a 豊田佐吉記念館
湖西市山口113-2

トヨタ自動車創業者である豊田佐吉の生家に織機などが展示され、モノづくりの精神にふれられる。



b スズキ歴史館
浜松市南区増楽町1301

初代社長、鈴木道雄が発明した織機、バイクや自動車などがならびスズキの歴史を学べる。



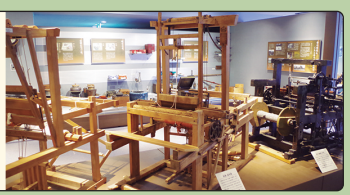
c 遠州織物 Co-Lab.
浜松市東区流通元町20-2
（浜松市総合産業展示館北館2階）

浜松の布の歴史や昔の織機、製品などが展示され、遠州織物について知ることができる。



d 浜松市市民ミュージアム浜北
浜松市浜北区貴布祢291-1

織物の工程にそって織機などの道具類を展示。織機でコースターを織る体験ができる。



e 初生衣神社
浜松市北区三ヶ日町岡本696

800年以上も伊勢神宮に神御衣をおさめていた神社。毎年4月に神御衣を運ぶ「おんぞ祭り」を行う。



